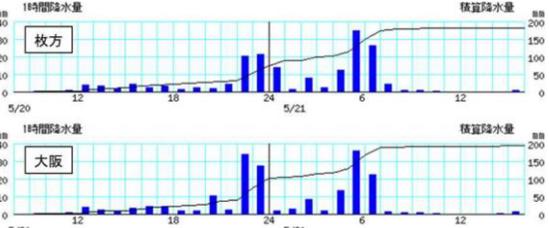
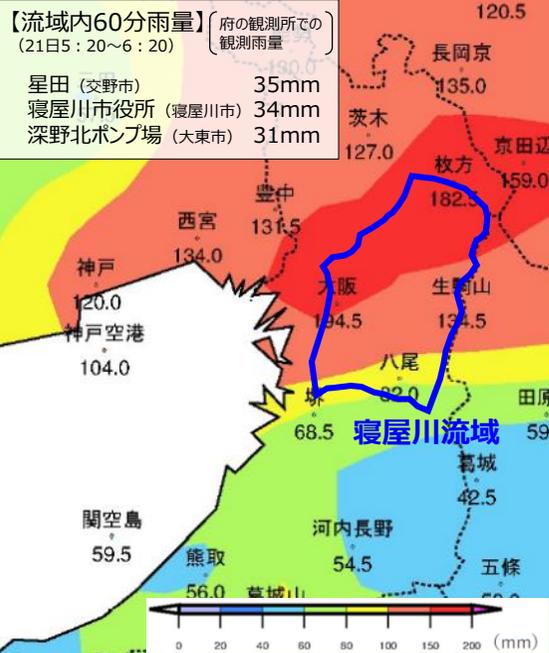


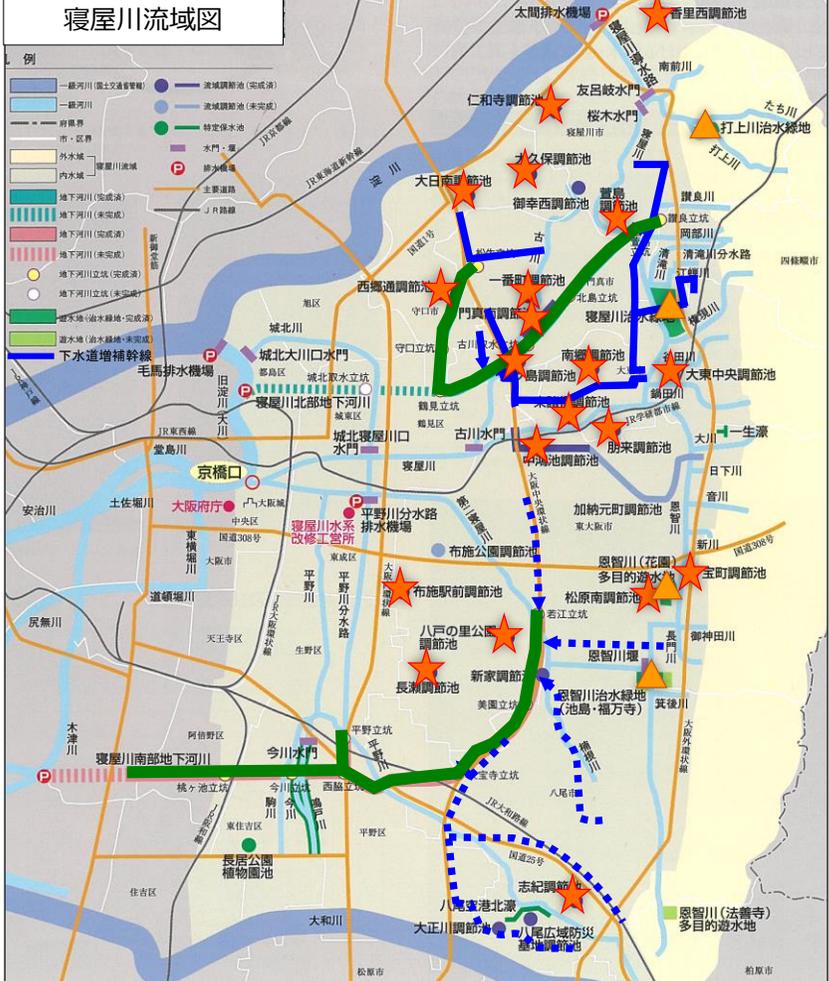
- 寝屋川流域では、河川、下水道等が一体となった総合治水対策として、遊水地、地下河川、流域調節池、下水道増補幹線等の貯留施設の整備を推進。
- 大阪管区气象台の発表では、气象台の5箇所の観測地点（能勢、茨木、枚方、豊中、大阪市中央区）で、**1時間雨量などの降水量が5月の観測史上1位の値を更新**。大阪府の観測点でも、60分雨量で30mm程度の降雨が確認されたが、**貯留施設で約148.3万m³を貯留し、浸水被害を軽減**。
（内水対策としての貯留量が、最大値を記録（これまでの最大値：H30.7.5～7 63.8万m³））
- 令和3年3月30日に供用開始した北部地下河川守口調節池（貯留量6.0万m³）では満杯貯留。

※本資料の数値等は、寝屋川流域協議会調べによる。

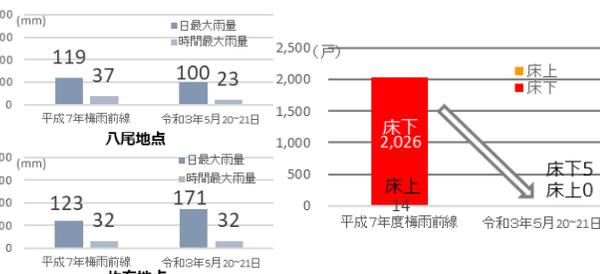
アメダス期間降水量（20日8：00～21日16：00）



（出典）大阪管区气象台「令和3年5月20日から21日の梅雨前線や低気圧による大雨について」



流域内での降雨と被害（令和3年5月24日時点）



貯留量 約148.3万m³（供用済全貯留量 529.3万m³）

- 【外水対策】44.8万m³ 13.9%
 - △：遊水地 4箇所 約44.8万m³ 13.9%
- 【内水対策】103.5万m³ 49.9%
 - ：地下河川 約58.4万m³ 65.6%
（北部：26.0万m³、南部：32.4万m³）
 - ：下水道増補幹線 約20.0万m³ 35.1%
 - ★：調節池 約25.1万m³ 41.0%
（24箇所中20箇所で貯留）

